

報告書概要版

近畿地方整備局における建設コンサルタント業務等の 成績評定点の入力ミス事案の再発防止策等について（報告書概要）

1. 業務等の成績評定点の入力ミスの状況

- 令和7年7月、テクリスに登録している過去の成績評定点に一部入力ミスがあることが判明
- 令和2年度以降の完了業務についての入力ミス発生数は下表
- R2、R3は近畿独自システムを活用、R4からCCMSを活用したが、移行期にミスが多発
- 技術者評定点は、R4にR2、R3分をまとめて作業しており、その際ミスが多く発生

■表 完了年度別入力ミスの発生数

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
業務評定点のミス	6	9	17			32
技術者評定点のミス	143	72	112	3	3	333
合計	149	81	129	3	3	365
(※対象業務件数)	(115)	(50)	(72)	(2)	(3)	(242)

2. ミスの発生原因等

- 365箇所ของミスについて内容を精査した結果、ミスの発生原因、修正できなかった原因は、以下のとおり。

- ①手入力時の入力ミス
- ②CCMSの登録ルールの不徹底
 - ・出力した成績評定通知書自体を加工
 - ・作業値をそのまま登録
- ③照査技術者等の登録漏れ
- ④各々の担当が独自の手法で作業
- ⑤同一業務名の業務が多く、混乱が発生
- ⑥再登録ルールがなく、ミスを修正する仕組みがなかったこと
- ⑦企業側は自社の成績評定点のテクリス登録値を閲覧できず、誤りを認知できないこと

3. 再発防止の方向性

- ①総合評価における成績評定点の重要性を踏まえ、しっかりと再発防止策を実施
- ②CCMS導入後のミスの減少を踏まえて検討
- ③システム改善での対応を基本
- ④システム改善までの間の、マニュアルの整備等、当面の措置に取り組む
- ⑤企業側が自社の成績を確認できる仕組みも検討
- ⑥システム改善等、業務のDXを推進する担当組織を強化

4. 再発防止策

(1) 人材育成、体制強化

- ①研修を通じた成績評定点の取り扱いに関する継続的な教育、②システム改善に取り組み、業務のDX化を推進する組織体制の強化

(2) システム改善

【人間による操作行為を最小化するシステム改善】

- CCMSとテクリスを連動させ、CCMSの登録がそのまま自動的にテクリスに反映するようにシステムを改善

【運用を誤らない物理的な措置の導入】

- CCMSから出力した成績評定通知書自体を加工できない仕組みを導入

【システム対応の追求】

- CCMSを特記仕様書と連動させ、対象技術者の種類が自動選択されるようシステムを変更

(4) 企業側が確認できる仕組み

- 企業側が自社成績のテクリス登録内容を確認できるようJACICに改善を依頼

(3) 当面の措置

【業務フローの見直しとマニュアルの整備】

- 業務フローの見直しを行い、適切な登録作業を可能とするマニュアルを整備

【同一業務名とならない措置の導入】

- 同一業務名が生じないよう、業務名の付け方についてルールを設定

【速やかに再登録をする仕組みの構築】

- 成績評定点を見直した時は、速やかにテクリス再登録することをルール化
- 登録担当が的確に見直しを把握できるように業務フローを見直し

【テクリス登録値を再確認する仕組みの導入】

- 毎年6月に過去4年分の成績評定点をJACICに登録することに変更
- 毎年7月末にテクリスの成績評定点に登録漏れ等がないか、確認